

○ 活動から

**遊戯的活動 1** 指導援助者と肩を組み、言葉を交わしながら、海を眺めたり、砂浜に腰を下ろして、音楽を聞いたりして遊戯的活動を行う。最初は、緊張感から静かな雰囲気である。しかし、上級生が下級生の後ろ姿に砂をかけたことがきっかけになり、本来の活気がよみがえり、寄せる波に喚声をあげる者、拾い集めた貝殻の模様を自慢げに仲間に語りかける者等、次第に、心理的解放が進み、生き生きと活動する様子が見られるようになる。



【自分たちの安全を祈願して作った砂の芸術作品「守護神」】

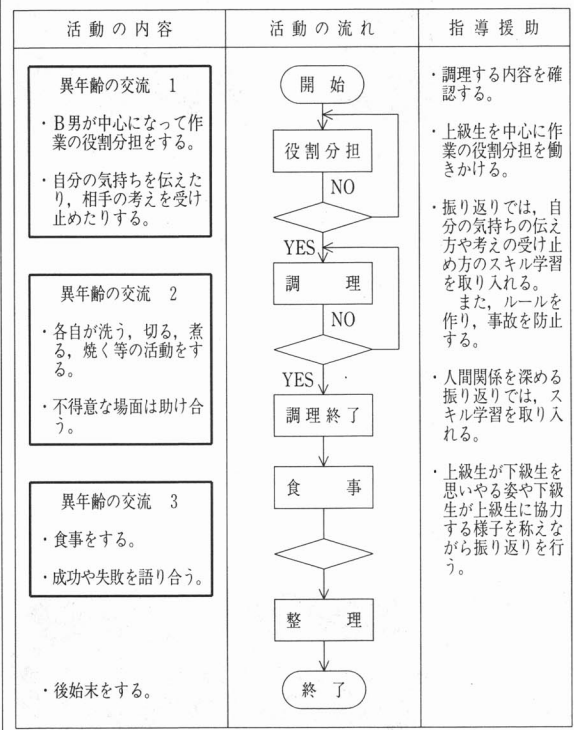
**遊戯的活動 2** 児童生徒は、最初、衣服等が汚れることを気にして、活動への取り組みを渋っているが、自分たちの思いが作品として形作

られるようになってくると、表情が豊かになり、徐々に、動きが活発になってくる。

ここでは、遊戯的活動が単なる遊びに流れないようにするために、「振り返り」の中で、児童生徒一人一人が作品への思いを語ることによって、創作意欲が高まる。

〈実際例 2〉

- 野外炊飯（生活的活動）
- ねらい  
共同活動により、集団生活への参加意欲を高め、仲間との交流で円滑な対人関係をつくる。
- 活動



○ 活動から

**異年齢の交流 1** 最初、野外炊飯に必要な作業の役割分担の話し合いを行ったが、負担に思う作業を相手に押しつける者、負担を感じて尻込みする者が出る。

そこで、振り返りの中で、不登校児童生徒にとって苦手な対人関係を円滑にするために、「自分の気持ちの伝え方と相手の考えの受け止め方」について、作業の役割分担を仲間同士で円滑に進める場面を設定し、指導援助者二人（T1、